

平成三十一年度 入学試験（平成30年11月17日）

「国語総合」

戸田中央看護専門学校

一、次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

毎朝の通勤通学の風景。駅のホームに並び電車を待つ人々。彼らの九割以上がスマホをのぞきこみ、一心に指を滑らしています。もう見慣れた、あまりにも「あたりまえ」の日常のワンシーンといえるでしょう。でも私は毎日この情景を見るたび、それぞれ異なった人々がまったく同じ姿勢を保ち、同じ動作をしている画一さ、均質さを感じます。同時に（A）スマホに“飼い慣らされて”しまっている私たちの姿であることに気づき、（B）センシブルにしているのです。

スマホはついぶん前から日常化し、身体化しているメディアと言えるでしょう。終日、なんらかのかたちでスマホに依存している私たちの日常があるとして、その状態をどのように私たちは考えればいいでしょうか。

I アルコールや薬物と同じように考え、スマホに過剰に支配された姿を依存症と呼び、一つの「病い」と考えることもできるでしょう。「病い」であれば、私たちがその症状から回復するための「治療法」や「処方」が考えられます。スマホを使う時間帯を制限するか、学校ではスマホの使用を禁止するか、ある規制をつくりあげ、私たちとスマホの関係を改善していくという方向性です。

また、スマホとの適切なつきあい方を、スマホとより円熟した関係をつくりあげている「先輩」からわかりやすい説明で、伝授してもらおうという方向もあるでしょう。巷にスマホとの効果的なつきあい方やスマホの活用法をわかりやすく語るノーハウ本が氾濫しているのも、こうした発想の表れと言えるでしょう。

でも、いずれの「処方」にしても私たちの大半が用いること自体に抵（い）コウすら感じなくなっているスマホと日常的关系のありようを「依存」や「病理」という視角から考えること自体、私たちがすでにスマホという魅力ある魔性のメディアに絡めとられていることの証左ではないでしょうか。

ここでは「依存」や「病理」ではない発想で、スマホのある日常を考えてみたいと思います。

確かにスマホは圧倒的に便利な道具です。大学のゼミでは、以前であればメンバー各自の住所や連絡先を聞き、ゼミの連絡（ウ）モウを作っていたのが、今では、メンバーの誰かにお願ひすれば、その場でLINEなどSNS（ソーシャルネットワークサービス）を通して「伝えるべき連絡事項や情報」が一瞬のうちに流れていきます。

また私は、最近だんだんもの忘れが進んでいるのですが、ゼミである本を紹介しようと思っても、すぐに正確な著者名やタイトルが思い浮かばない時があります。「ちよつと待

ってね、思い出すから」と言い、タイトルを思い出そうと呻吟しんげんしていると、学生たちはスマホの画面に指を滑らせ、瞬く間に、「先生の言ってる本ってこれのことですか」と正確な情報を示してくれます。このとき、私はスマホ、というか(B)スマホを通して開けているインターネット空間の利便さを実感するのです。

普段私は、パワーポイントなど一切使わずに、従来通り、黒板に板書しながら講義をしています。二五〇人は入るような大教室で講義をしているとき、前の方に座っている学生たちは、板書を適宜自分のノートやルーズリーフに書き写しながら、私の講義を楽しんで聞いています。他方、講義を聞く気もあまりないのに、講義室にやってくる学生たちもいます。彼らは、講義の邪魔にならないよう、それなりに“配慮”しながら、後ろの方にはまって雑談をしています。ただ講義の場にいること自体にまだ意味を見出しているのでしょう。板書である程度黒板に文字が埋まった頃あいを見計らって、一斉に、スマホで黒板の画像を撮るのです。何人かの学生が両手を伸ばして、スマホで黒板を撮ろうとする姿は、前から見ていて、けっこう滑稽で、私は思わず、ピースをして写りこみたいという衝動にかられてしまいます。

(中略)

片手に収まる端末としてのスマホ。それは画像や動画も撮れるし、鮮明な映像もみるこ  
とができるし、もちろん電話の機能も備えています。すでにコンピュータの端末以上の機能を持つています。こうした道具を手にしてまさに一日中何らかの形で操作をすることで、私たちは「今、ここ」で、目の前にいるあなたとだけ出会えるのではなく、瞬時のうちに、(C)「今、ここ」を超(え)エツし、多様な現実とつながることが出来ます。スマホを使いこなす日常で、(D)私たちはいったい何を手にして、何が脅かされているのでしょうか。それは端的に言って、「世界」を携帯する悦楽であり、その裏返しとして「わたし」が不特定多数の匿名の人々にさらされるリスクだと私は考えています。

コンピュータが開発されインターネット社会が登場してずいぶん時間がたっています。私はノートパソコンでこの原稿を書いています。少し前であれば、デスクトップのパソコンを前にしてキーボードを叩いていたはず。原稿を書いて少しくたびれば、ワードを閉じて、メールが届いていないか確認したり、ネットを開けてさまざまな情報にアクセスしたりします。ただこうした営みは、まさに「机を前にして」「私がやっていることなのです。でも今は、「机を前に」する必要もないし、「ノートパソコンを膝の上に置く」必要もなく、ただ手のひらに収まっているスマホに指を滑らせることで、いつでもどこでも「世界」を自分の前に開くことができるのです。

デスクトップからスマホへ。これは単なる道具の技術革新だけではないのです。「机の前に座ったり」「部屋にこもったり」「何インチかの画面に集中したり」など、まさにネットへ私たちが向きあうために一定の手続きや姿勢の変更、意識の変更が必要だったのが、そうした身体的動作や日常的な意識の変更をせずに、いつでも私たちは「世界」と向き合

えるようになりました。このことが、日常生活でいくうえで決定的な生活の「革新」をもたらしたと考えます。

なにか特別な手続きや意識の変化など一切不要で、いつでもどこでもネット「世界」を開き、自分自身をそこで遊ばせることができるのであれば、これはこのうえもない刺激や興奮をもたらす、えもいえぬ悦楽ではないでしょうか。こう考えてくれば、「歩きスマホ」は必然であり、当然の結果なのです。

日常的な道徳やエチケットとして、あるいは危(お)ケンな事故を防ぐために「歩きスマホはやめましょう」と連呼することはできても、それだけで絶対「歩きスマホ」はなくならないでしょう。なぜなら、そうした規制の声が耳に入らないくらい、圧倒的に私たちは今、「世界」を携帯できる悦楽に魅了されてしまっているからです。「世界」を携帯できる悦楽に驚き、魅了されているかぎり、「歩きスマホ」は思いっきり自然な営みであり続けるでしょう。

では、どうなれば「歩きスマホ」はなくなっていくのでしょうか。私は、こう夢想します。「世界」を携帯できること自体、特に驚くべきことでもないし、魅了されることでもない、その意味で II で「あたりまえ」だという意識を私たちがもつこと。それができて初めて、「歩きスマホ」が日常生活に様々な支障をきたすということを、本当の意味で私たちは(E) 自らの腑に落とすことができるのではないのでしょうか。

(好井裕明『「今、ここ」から考える社会学』筑摩書房、一部改)

問一、(あ)〜(お)の傍線部と同じ漢字を使うものを、次の各群の1〜4のうちから、

それぞれ一つ選びなさい。

【あ：解答番号1、い：解答番号2、う：解答番号3、え：解答番号4、お：解答番号5】

- |          |       |       |       |       |
|----------|-------|-------|-------|-------|
| (あ) セン慄  | 1、金セン | 2、セン抜 | 3、セン路 | 4、観セン |
| (い) 抵コウ  | 1、コウ番 | 2、コウ体 | 3、コウ率 | 4、コウ速 |
| (う) 連絡モウ | 1、羊モウ | 2、モウ膜 | 3、消モウ | 4、モウ点 |
| (え) 超エツ  | 1、校エツ | 2、僭エツ | 3、光エツ | 4、拝エツ |
| (お) 危ケン  | 1、ケン約 | 2、冒ケン | 3、拝ケン | 4、ケン虚 |

問二、(A)「スマホに“飼い慣らされて”しまっている」状態を説明したものとして最も

適当なものを、次の1〜4から選びなさい。

【解答番号6】

- 1、家でも学校でも、その他どんな場所でもスマホを際限なく使用している状態
- 2、スマホの命令に従っている状態
- 3、スマホに自由自在に操られる状態
- 4、スマホに集中して自分の世界に閉じこもっている状態

問三、空欄 I に入る接続表現として最も適切なものを、次の1～4から選びなさい。

【解答番号7】

- 1、しかしながら      2、一方      3、確かに      4、たとえば

問四、「私」が(B)「スマホを通して開けているインターネット空間の便利さを実感する」のはどんなときか。もっとも適当なものを、次の1～4から選びなさい。

【解答番号8】

- 1、技術の進歩により、場所を選ばずにメールチェックをすることが可能になったことに改めて気づくとき。
- 2、何人かの学生がスマホで黒板を撮ろうとするのをみて、現代の科学技術の進歩に気づかされ、思わずピースをして写りこみたいという衝動に駆られるとき。
- 3、インターネット社会が登場してから、ずいぶん時間が経ったことに気づかされたとき。
- 4、「歩きスマホ」は必然であり、当然の結果であることを悟ったとき。

問五、(C)「今、ここ」を超越し、多様な現実とつながること」の例として、筆者が挙げている具体例としてもっとも適切でないものを1～4から選びなさい。

【解答番号9】

- 1、ゼミの情報をSNSを通じてメンバー間で共有すること
- 2、スマホで板書の画像を撮ること
- 3、スマホで遠く離れた人と通話すること
- 4、本の情報をインターネットで検索すること

問六、スマホを使いこなす日常で、(D)「私たちはいったい何を手にして、何が脅かされているのでしょうか」とあるが、筆者によれば、手にしたものと脅かされたものはそれぞれ何か。1～4から選びなさい。

【解答番号10】

- 1、操作の便利なスマホを手にした代わりに、デスクトップの存在が脅かされるようになった。
- 2、あらゆるツールをコンパクトに持ち歩けるようになった代わりに、個人情報が入り込んだ多数の匿名の人々にさらされるリスクが発生した。
- 3、スマホの便利さを手にした代わりに、時間の浪費が助長されるようになった。
- 4、「世界」を携帯する悦楽を手にした代わりに、通信費の負担が大きくなった。

問七、空欄 II に入る語としてもっとも適切なものを、次の1～4から選びなさい。

【解答番号11】

- 1、野暮      2、平凡      3、常識的      4、陳腐

問八、(E)「自らの“腑はらに落とす”<sup>5</sup>」とはどういうことか。1〜4から選びなさい。

【解答番号12】

1、無理やり納得する 2、承諾する 3、深く納得する 4、痛感する

二、次の熟語の正しい読みを1〜4から選びなさい。

【解答番号13〜17】

13 飛沫 1、あわ 2、ひじゅう 3、ひまつ 4、とびひ

14 解熱 1、かいあつ 2、かいねつ 3、げあつ 4、げねつ

15 倫理 1、ろんり 2、じんり 3、りんり 4、ぶんり

16 頻繁 1、はんぱん 2、ひんぱん 3、ひんも 4、びんぱん

17 思惑 1、しわく 2、しこう 3、おもわく 4、ゆうわく

三、次のカタカナ語の意味として最も適当なものを、それぞれ1〜4から選びなさい。

【解答番号18〜20】

18 マイノリティ  
1、社会的少数者 2、研究者 3、被験者 4、社会的多数者

19 デメリット  
1、模範 2、長所 3、模倣 4、短所

20 バリアフリー  
1、障壁のある環境 2、緑のある環境 3、緑のない環境  
4、障壁のない環境

四、次の四字熟語の■に該当する漢字を1～4から選びなさい。

【解答番号 21～25】

21 新進■鋭(その方面に新しく登場して、勢いが盛んで鋭いこと)

1、盛 2、機 3、気 4、精

22 質実■健(飾り気がなくまじめで、強くたくましいさま)

1、健 2、剛 3、強 4、鋼

23 画■点睛(物事の大切なところ)

1、竜 2、材 3、漁 4、虎

24 ■然自若(落ち着いていて物事に動じないさま)

1、自 2、老 3、他 4、泰

25 ■慮断行(十分に考えたうえで、断固として実行すること)

1、配 2、考 3、熟 4、苦

五、次の( )に入れるのに最も適当なものを、それぞれ1～4から選びなさい。

【解答番号 26～29】

26 そんな悪知恵を働かせるなど、弁護士の( )にも置けない。

1、風下 2、風上 3、渦中 4、机上

27 差しさわりのないテレビ番組の話などをして( )を濁す。

1、お湯 2、水 3、酒 4、お茶

28 彼の長話には( )閉口した。

1、へとへと 2、しみじみ 3、ほとほと 4、さんざん

29 ニューヨークの不安に満ちたたたずまいは、一介の旅行者の私にも( )と感じられた。

1、ほそぼそ 2、はらはら 3、うるうる 4、ひしひし

六、以下の一文に続く形で、(a)～(d)の段落の順序を正しく並び替えなさい。その順序として正しいものを1～4から選びなさい。 【解答番号30】

深刻な地方の医師不足の解消をめざして、医療法などの改正案が国会に提出されている。

(a) 地方が権限をもち、主体的に考え、責任を引き受けるのは、本来あるべき姿だ。

(b) こうした医療関係者も加わる協議会は、すべての都道府県に設けられている。しかし形骸化しているものも少なくない。課題に向きあい、機能する組織に改めていく必要がある。

(c) 地域に必要な医師の数を算定した医師確保計画を、都道府県がつくる▽それにもとづき、自県や都会の大学医学部に対し、地元出身者枠の拡大や、地域で一定期間働くことを条件に入学を認める「地域枠」の設定を要請できるようにする▽卒業後の臨床研修先や定員を、国ではなく都道府県が決める方式に変える――などが柱だ。

(d) とはいえ、これで問題がただちに解決するわけではない。地元の大学、病院、医師会、学会が、それぞれの利害や立場を超えて、自治体と協力してとり組むことが不可欠だ。

〔医師偏在対策 医療界は責任の自覚を〕朝日新聞 社説 2018年4月25日)

- 1、 a ↓ c ↓ b ↓ d
- 2、 c ↓ a ↓ d ↓ b
- 3、 b ↓ d ↓ a ↓ c
- 4、 d ↓ a ↓ b ↓ c

七、次の作品の作者を、1～4からそれぞれひとつ選びなさい。 【解答番号31～33】

31 『武蔵野』

- 1、 福沢諭吉
- 2、 国木田独歩
- 3、 夏目漱石
- 4、 武者小路実篤

32 『高野聖』

- 1、 泉鏡花
- 2、 野上弥生子
- 3、 与謝野晶子
- 4、 石牟礼道子

33 『夜明け前』

- 1、 室生犀星
- 2、 永井荷風
- 3、 有島武郎
- 4、 島崎藤村